

## 「岩手の復興と再生に」 オール岩大パワーを

vol.6

<http://www.iwate-u.ac.jp/koho/fukkouletter.shtml> 岩手大学ホームページからもご覧いただけます。

### 津波被害を受けた農地の復興を目指して、栽培実験を行っています

農林畜産復興推進部門農地復興班では、津波で海水に浸されたことにより、塩害が発生した現地の土壌を回復する目的で、昨年度、久慈市の農地にソルガムを播種し、除塩を試みるとともに土壌の化学性の継続的な測定と農地復興の可能性を調査しました。

ちなみにソルガムは比較的塩濃度の高い環境でも生育できるとともに、バイオマスが大きく、除塩効果が高い植物として知られています。

今年度は昨年度に引き続き、農地復興班長の河合成直教授（農学部）を中心に、久慈市の農家にご提供いただいた農地を、①無施用区、②無作付け区、③化学肥料区、④堆肥区、⑤鶏糞+フェザーミール区、⑥鶏糞+フルボ酸資材区、⑦赤土客土+化学肥料区、⑧無作付け区の8つの実験区（1区画3メートル×3メートル）に分け、施肥を完了しました。

この実験区では、昨年度と同じソルガムを播種するとともに、生育調査、植物活性調査、土壌の電導度の調査を行う予定です。

また、新たに陸前高田市竹駒地区の農家に提供していただいた実験区でも、①無施用区、②化学肥料区、③堆肥区、④鶏糞区をそれぞれ2カ所、合計8カ所（一区画4.8メートル×4.8メートル）設けました。

陸前高田市の実験区では、現地の農家の技術により、例年通りの方法でキュウリを栽培していただき、土壌の化学性の変化の経時的調

査、作物の生育調査、土壌微生物の生物相の調査、植物の光合成能や気孔開度の調査を定期的に行う予定です。なお、こちらの実験区では、松嶋卯月准教授（農学部）のグループも加わり別の栽培試験も行う予定です。

※ソルガム…イネ科の一年草の植物・穀物でモロコシともいいます。



久慈市内の実験区

### 三陸の水産業復興に向けて、重茂漁協を視察しました

平成24年6月4日、岩手大学三陸復興推進機構水産業復興推進部門の教員等14名が、宮古市重茂の重茂漁業協同組合を視察しました。

今回の視察は、水産業復興推進部門の水産新素材・加工技術・加工設備開発班の班員が中心となって行われたもので、三陸水産業の復興に関する連携推進協定を締結している東京海洋大学及び北里大学の教員も参加しました。

今回の視察にご協力いただいた重茂漁協は、ワカメや昆布、サケ、ウニなどを主力生産品とし、また、自前の加工施設を有しており、加工品の販売も行っています。視察では、重茂漁協の復興の取り組みなどについて説明を受けたほか、加工施設の見学などを行いました。参加した教員等は、今後の取り組みの参考にすべく、漁協の担当者の方の説明に真剣に耳を傾けていました。

また、視察に先立って、3大学の教員等による意見交換会が行われ、三陸の水産業関係者のニーズをどのように汲み取るか、また、大学が提供できるシーズをどのように伝えていくか、といったことが話し合われました。

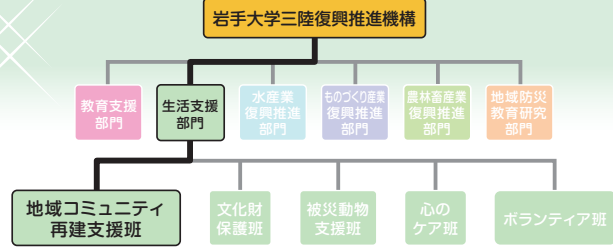
岩手大学では、三陸の水産業の復興のため、今後も地元の方々との話し合い等を通じて積極的に活動していきます。



重茂漁協参事からの説明風景

# 岩手大学三陸復興プロジェクト

岩手大学では岩手大学三陸復興推進機構を設置し、地域の行政や住民、他大学、企業等と連携を図りながら、教職員、学生が一丸となって東日本大震災復興に取り組んでいます。今回は、元気な岩手大学生が陸前高田市の人たちと交流を深めながら、一緒に実践的な取り組みを行っている地域コミュニティ再建支援班をご紹介します。



## 広域コミュニティの形成を目指して

岩手大学三陸復興推進機構 生活支援部門地域コミュニティ再建支援班  
五味 壮平 (人文社会科学部 准教授)

被災地では、失われてしまった、あるいは弱くなってしまったコミュニティを再建するという大きな課題が存在しています。

一方で、全国的に東日本大震災への関心が徐々に薄れていくなか、被災地への全国の人々の関心をとどめ置くこと、そして精神的、経済的な意味での支援を継続し続けるコミュニティを被災地の外の人たちも巻き込む形で形成していくこともまた重要だと考えています。こうした地元以外の人たちの存在はまた、被災地内でのコミュニティにプラスの影響をもたらすと考えられます。

本プロジェクトでは、情報デザイン研究の実践として「被災地の内部と外部のつなぎめとなり、被災地を中心とした広域コミュニティの形成を促進すること」を目的としています。

この目的に向けて、特に陸前高田市を対象として、元気な大学生達と一緒に実践的な取り組みを行っていきたくと思っています。まずは現地の人たちとの交流を広め、深める一方、インターネットの利用によって全国の方々と顔の見える関係を築いていきたいと考えています。

中心となって活動しているのは、人文社会科学部の4年生と大学院生の数名です。昨年暮れ頃から時に悩みながらも、私自身も少々驚くくらいの熱心さで取り組みを継続してきました。

4月にはこのチームに岩大E\_codeという名前をつけました。

codeの「co」は、communication, community, collaboration, connectionの略。「de」はdesignの略です。

何度も陸前高田市に通い、いろいろな方々と交流させていただく中で、我々自身すっかり陸前高田市の「ファン」になっています。平成24年5月3日には、卒業生のおかげで縁のできた高田町柵ヶ沢地区の仮設商店街「柵ヶ沢ベース」のオープニングイベントを実施しました。多くの学生達が協力し、豪雨と暴風のなかで明るく頑張る大学生諸君の姿に、喜んでくれた方も少なくなかったのではないかと思います。



岩手大E\_code作業風景

その後、同市を訪れる人たちに、より深い経験をしてもらうきっかけを提供することを主目的として、私たちがいただいた貴重な経験を盛り込んだフリーペーパーを作成し、6月に創刊号を発行しました。同時にtwitterを組織的に利用して、陸前高田市にゆかりのある方々との交流もはじめています。

今後も息の長い活動を続け、陸前高田市の人たち、全国で陸前高田市を見守る人たち、そして今後「ファン」となり支えになってくれるかもしれない人達と交流を深め、そのつなぎめとなっていきたくと思っています。



柵ヶ沢ベースオープニングイベントにて

## 釜石サテライトだより

釜石市内も被災したビルが壊され、空き地が目立つようになってきました。空き地に雑草が生い茂るようになり、初めて訪れる方にとっては、そこに建物があつたことがわからず、被災の状況を把握しにくくなっていることを心配しています。

最近の被災地の状況について報告します。

### ●浜の状況について

漁港に係留している漁船が少しずつ増えてきましたが、まだ必要隻数の半数も復旧されていないようです。

また、漁港内には、従来の屋内作業場の代わりに、仮設テントが設置されていますが、まだ数が少なく、野外での作業を強いられている漁業者もおります。

養殖ワカメの収穫は5月で終了し、数量は一昨年7割ほどでしたが、高単価により、金額は一昨年と同程度まで回復しました。

これからは、養殖コンブの収穫とウニ漁が始まる時期になります。

### ●水産加工業について

建設資材の不足が心配されていますが、少しずつ、新しい水産加工場の完成が見られるようになってきました。一部では、大学と商品開発を行う

業者も出てきました。

一方で、比較的賃金の高いNPOなどでの雇用が増えたため、水産加工業への従事者が集まらないという話もあります。

### ●仮設住宅の生活について

気候が暖かくなり、仮設住宅の外に出て会話をしている住民の姿が見られるようになってきました。

最近では、仮設団地ごとに支援連絡員が配置され、各戸の見回りが行われています。支援連絡員の方は、「支援物資は少なくなりましたが、これからは物の支援より精神面でのケアの支援が重要」と話していました。



仮設住宅での井戸端会議

今後、様々なプロジェクトが展開される中で、現場窓口としてサポートさせていただきます。

### 連絡先

釜石サテライト  
〒026-0031 岩手県釜石市鈴子町15-2 釜石市教育センター5階  
TEL:0193-22-4420 / 0193-22-4426  
E-mail:kamaishi@iwate-u.ac.jp

## Information

### 第8回岩手県教育サミット

(第8回岩手県幼小中高大専ESD円卓会議)

「東日本大震災津波と持続可能な社会のための学校・教育の役割」をテーマに、教訓を風化させないための県内幼小中高大専の取り組みについて議論します。

日時：7月7日(土) 13:30~17:00

場所：岩手大学(工学部)総合教育研究棟(環境系)復興祈念 銀河ホール

対象：一般

お問い合わせ 岩手大学学務課(岩手県ESD円卓会議事務局)  
TEL 019-621-6092

### 岩手大学地域防災研究センター 地域防災フォーラム

地域防災研究センターでは、皆さんの自然災害や防災に関する疑問等にお答えするため、「地域防災フォーラム」を定期的に開催します。今回はセンター設立を記念して下記のとおり特別講演会を行います。ノンフィクション作家で評論家の柳田邦男氏を講師に迎え「災害を見る視点の転換を～科学の眼、行政の眼、被害者の眼～」と題してご講演いただき、それぞれの視点から災害について考えます。

日時：7月11日(水) 18:00~20:30

場所：岩手県情報交流センター アイーナ7階 アイーナホール

対象：一般(要申込、申込方法は下記ホームページをご覧ください)

お問い合わせ 岩手大学研究協力課 TEL 019-621-6851  
http://rcrdm.iwate-u.ac.jp/forum01.html

### 編集後記

6月9日に、野田武則釜石市長、東京海洋大学の岡本信明学長とさかなクン(客員准教授)を講師にお迎えして、開学記念講演会を開催しました。当日はあいにくの雨にも関わらず、多くの方にご来場いただきました。特にさかなクンは子ども達に大人気です。三陸の海となじみの深い鮭や鯉や鱒などの特徴を捉えた絵を模造紙に描いたクイズは、とても盛り上がりました。震災後に三陸の海に潜った時の様子も映像で紹介され、三陸の海や生き物がどのような状況なのかを知る、良い機会となりました。